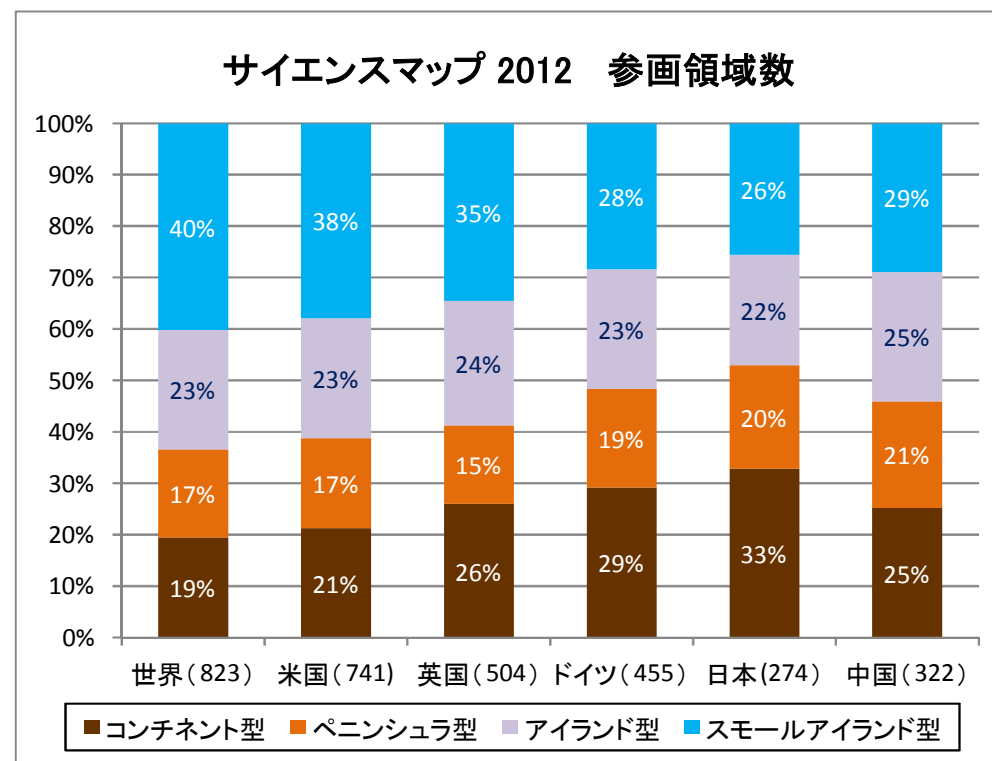


図3-21 / 主要国における研究領域タイプの特徴

○世界の動向を見ると、スモールアイランド型領域(小規模で入れ替わりが活発な領域)が40%を占める。一方、日本はコンチネント型(大規模で入れ替わりが少ない領域)のシェアが高く、スモールアイランド型のシェアが低い。

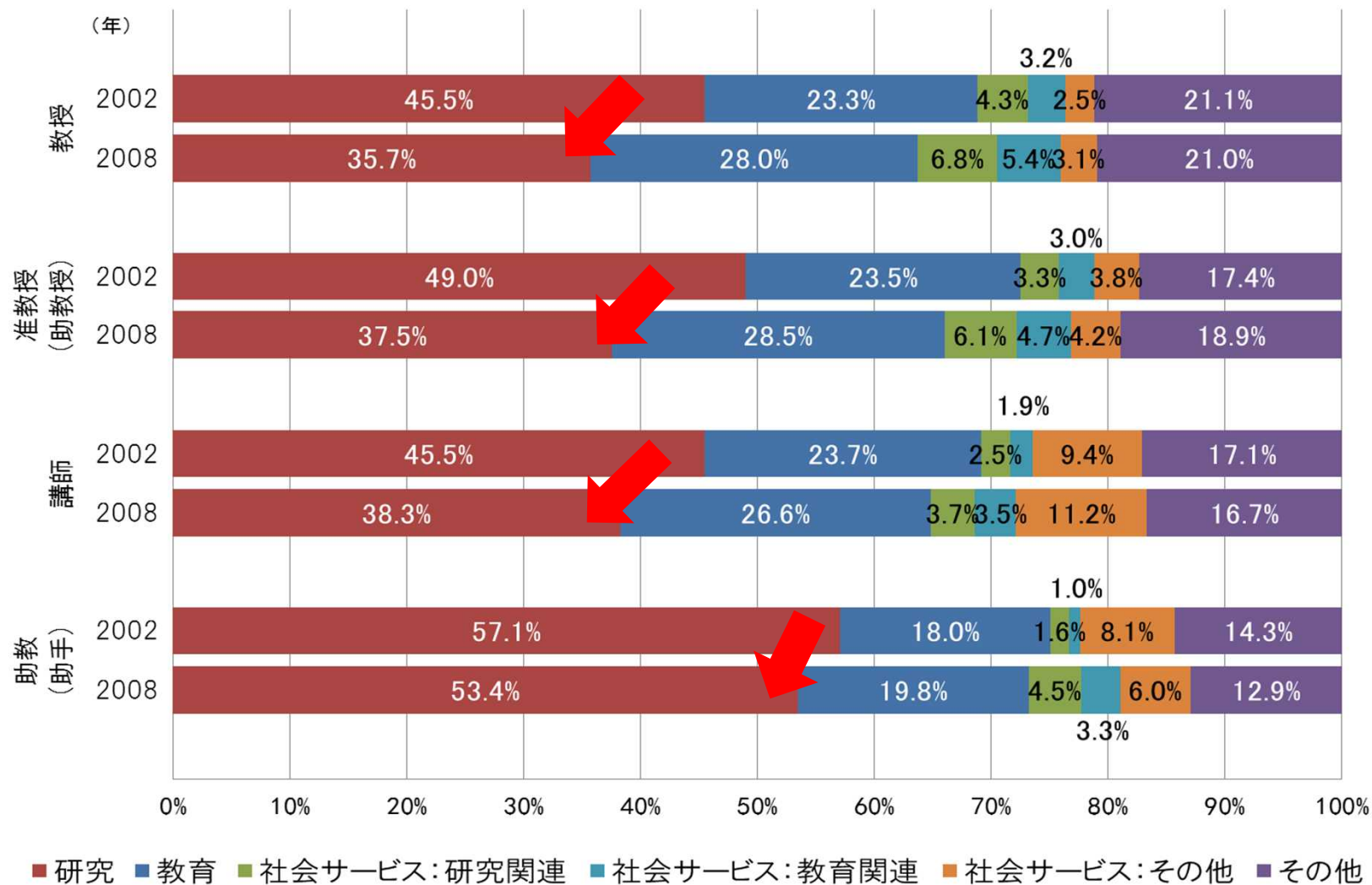


- コアペーパーとは、
- 研究領域の核を構成する論文
 - 共引用関係(注目する2つの論文がその他の論文により同時に引用されること)で結びつけられた論文

出典: 科学技術・学術政策研究所「サイエスマップ2010&2012—論文データベース分析(2005年から2010年および2007年から2012年)による注目される研究領域の動向調査—」NISTEP REPORT No.159(平成26年7月)

図3-22 / 職位別・活動別年間平均職務時間割合（全大学）

○大学教員の研究時間は2002年と比較すると、2008年は減少。



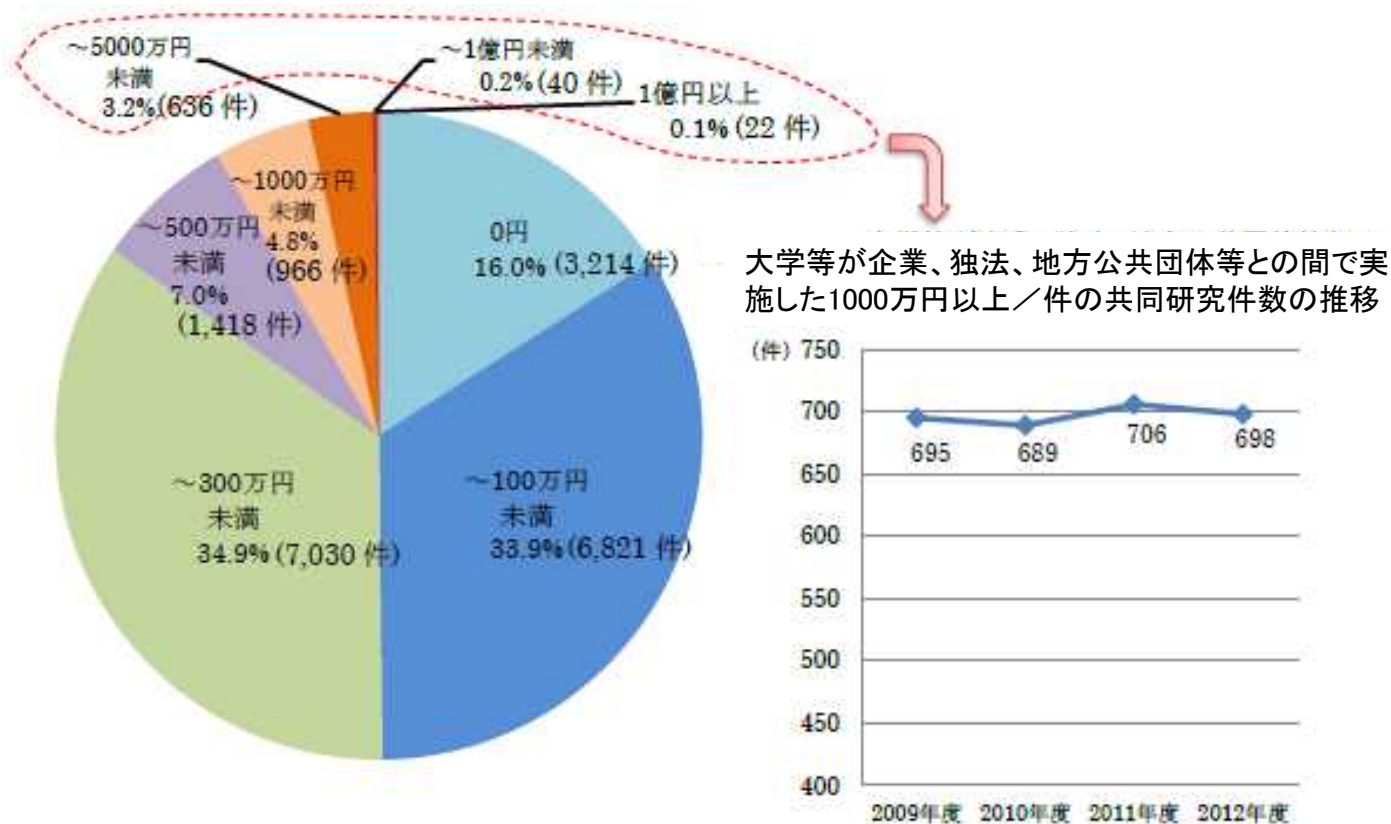
※ 大学の学部（大学院も含む）。括弧内は2002年調査時の名称

出典：科学技術政策研究所「減少する大学教員の研究時間—

「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」による2002年と2008年の比較—

図3-23 / 大学等が企業、独法等と実施する共同研究の予算規模

- 共同研究1件あたりの受入れ金額は、約半数が100万円未満にとどまる。
- 1000万円以上/件は全体の約3%であり、近年横ばいで推移。



出典：科学技術・学術政策研究所「産学連携と大学発イノベーションの創出 (ver.2)」